



熊谷 もも 議員

学習支援、どのように取り組むのか？

学習支援

学習支援ボランティアの意見や事例を参考に、支援体制を確立する

る。市民がボランティアしやすい仕組みを作るのが行政の役割ではないか。

答 健康福祉部長

貧困対策は、社協が中心となって活動していただいております。社協はボランティアの育成団体でもあるので、連携を含めてしっかりと考えていきます。

問 野洲市の場合、市役所内部に社協の窓口があり、素早く対応できる体制にあるが、高島市は社協と離れている。距離と時間に課題はないか。

答 健康福祉部長

野洲市のように新旭庁舎内に社協の窓口があればベストですが、庁舎の現状を踏まえた中では難しい状況です。

問 ボランティア精神があふれる方だけに頼るのではなく、ボランティアしやすい仕組みを地域の皆さまに提示することが必要ではないか。

答 健康福祉部長

ボランティアだけに頼るのではなく、地域全体で取り組む考え方には共感します。今年一年をかけて考えていきたいと思います。

問 住民やボランティア、NPO、社協など、行政は多様な関係者と問題を共有し、もっと豊かな課題解決ができる

問 学習支援の形は多様だが、個人のボランティアの力だけでは、市全体に広げることが難しい。市として「学習支援」にどのように取り組むのか。

答 健康福祉部長

教育委員会と連携を図り、子どもの貧困対策部会などで総合的に検討していきます。

問 滋賀県社協は「遊ぶ・学べる・淡海子ども食堂」推進事業を開始した。各自治区などで広がっているか。

答 健康福祉部長

子どもの貧困対策部会の中で包括して今年検討します。

高島市の子どもみんながそれぞれの夢をのびやかに描けるように。

問 高島市として社会福祉協議会（社協）と連携して、貧困家庭への学習支援についてどのような関わりやサポートをしていきたいと考えるか。

答 健康福祉部長

単に進学のための学習支援だけでなく、子どもの社会性の醸成や家族全体に対する支援を考えています。高島市社協と連携をとり、個別的に関わり伴走することが重要です。



子どもの貧困対策部会でのワークショップ

また、学習支援のボランティアを実践されている方々から部会の委員としてご意見をいただき、多くの事例も参考として、議論を重ね支援体制を確立していきます。